

柔らかな日差しが注ぐこの頃、春の訪れを感じます。

本日、私たち高校3年169名は、卒業式を迎えることができました。ご出席の皆様には、お忙しい中、ご臨席いただき、ありがとうございます。卒業生を代表し、ご挨拶させていただきます。

2017年4月、セーラー服を身にまとった私は、満開の桜の木の下で入学式の記念写真を撮りました。そこからの年月は、一瞬のようですが、入学式の日に関わりつつも、私にとってかけがえのない存在となった、濃く長い6年間でもありました。テスト前に励まし合いながら学習する瞬間、部活動で共に作品を創造する瞬間、英語研修等のお泊まり行事など、時にはぶつかり合いながらも、助け合い、喜びを分かちあった全てが、いま隣にいる友人たちを大切な存在へと変えてくれたのだと思います。

私自身、高校2年生にして初めて執行部に所属し生徒会長として1年間務めました。学校に関する知識がほとんどないために、活動全てが混迷を極めていました。実力に見合わない立場に置かれた私は、常に申し訳なさや緊張感が消えない日々を過ごしていました。そんな中、クラスや廊下で会う同級生との他愛のない会話や、相談に乗ってくれる友人がいたことが私の何よりの心の救いとなり、職務を無事に終えることができました。本当にありがとうございます。また、そんな成長過程を常に温かく見守って下さった先生方をはじめとする関係者の方々にも、感謝しても切れません。

お父さん、お母さん、神奈川学園と出会う機会を私たちに与え、1番の理解者でいてくれてありがとうございます。

神奈川学園での6年間、私は、何度も「あなたは どう思うのか」と問われました。

女性の社会活躍を最前線で見てこられた村木厚子さんの講演会は、今後ぶつかる可能性のある、女性としてのキャリア構築を深く考える機会となりました。

女子校という特徴を活かした講演会だけでなく、神奈川学園の先輩や先生方が受け継いできた繋がりによって、様々な立場の方々から直接お話を聞く機会に恵まれました。そこで私たちは、守られた環境の中では気付かなかった現実を知り、思いを巡らしてきました。

進路開拓の際、何度も内省し、自分の未来を熟考できたのは、「知り、考える力」を6年間を通して身につけられたからだだと思います。

この考え続ける力は、誰もが情報発信できるSNS時代を生きる私たちにとって、今後も重要になると思います。

社会では、例えばロシアのウクライナ侵攻など、多くの問題を知る時、大量の情報の中から、正しい情報を得なくてはなりません。その時、AIの便利さによって思考停止することなく、自分の見解や軸を明確にする必要があると感じます。

それだけでなく、責任のある言動と行動のためにも、思考は止めてはいけません。

この発言が自分と異なるバックグラウンドを持つ相手にどう響くのか、そこまで考えることが、「他者に寄り添う」ことだと思うからです。神奈川学園は、物理的に年齢を重ねるだけでなく、精神的にも成長し、大人になるための重要な力を与えてくれました。

卒業後は、それぞれ異なる道に進みます。毎朝、教室に入った時に感じるあの心地良さをもう感じられないのは、寂しいですが、6年間を共に過ごしたこの温かい仲間をはじめとする神奈川学園は、これからも私の心を優しく包み込んでくれると思います。

強く賢い女性となって再会できるように、お父さんお母さんには恩返し出来るように、これからも精進いたします。

卒業生を代表し、ここでもう一度、心からの感謝を申し上げ、卒業の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。